

本校生徒考案エダマメ菓子販売

実施期日 平成27年9月12・13日

平成27年9月13日付 北鹿新聞掲載



おおだて秋豆を宣伝する福原市長（左から3人目）ら
（いとく大館ショッピングセンター）

高校生 菓子の販売も好調

大館産エダマメ

土にこだわり「秋豆」

きょうまで いとくSC 研究会が販売イベント

土づくりから独自色を出した大館市産エダマメ「おおだて秋豆」と、地元菓子店や高校生が考案したエダマメ菓子の販売イベントが12日、同市御成町のいとく大館ショッピングセンター（SC）で始まった。初日は福原淳嗣市長やご当地アイドル「まちあわせハチ公ガールズ」らも応援に駆けつけ、旬の味覚をアピール。菓子は早々に完売する好調ぶり、関心の高さをうかがわせた。13日まで。

県北秋田地域振興局と市、JAあきた北、大館商工会議所でつくる「大館市えだまめ産地育成研究会」（会長・松田佳樹JAあきた北販売営農部長）の主催。地元消費の拡大を図ろうと大館市内の畑2畝に比内地鶏の鶏ふんを原料とした市生産堆肥・ヒナイドリムと、比内地域で産出される緑色凝灰岩・十和田石の土壌改良材を使用して試験栽培した主力品種「あきた香五葉」と「あきたほのか」を「おおだて秋豆」と名付けた。

1袋250g入り195円（税別）800袋を用意し、SCのほか市内いとく4店舗（樹海店・大館東店・片山店・比内店）で同時に販売。西日

のイベント以外にも9月いっぱい取り扱うという。

菓子は、大館高の生徒たちが考案した「えだまめブラウニー（チョコレートケーキ）」と「えだまめ&かぼちゃパウンドケーキ」、菓子舗一ノ関（扇田）の「枝豆の焼きドーナツ」と「えだまめのシフォンケーキ」、大正堂（御成町）の「えだまめパウンド」の5種類。ブラウニーとパウンドケーキは市内菓子店でつくる倶楽部スイーツ（一関宏孝代表）が技術指導に当たり、生徒と一緒に製造した。数量限定で1個100～190円。

販売は大館国際情報学院高の生徒たちが担当し、福原市長やアイドルたちもエダマメにちなんだ緑色のはんてん姿で登場。研究会が作製したクリアファイルとつちわを配ったり、おおだて秋豆の試食を勧めたりした。初日だけのエダマメつかみ取りも行われ、多くの買い物客でにぎわっていた。13日は午前10時から午後5時まで。

エダマメをめぐるっては県出荷量日本一を目指し、JAあきた北も最重点項目に位付けている。26年度に農産流通加工センターが稼働し生産・流通・加工の効率的体制が整備された。27年度栽培面積は103・3畝で年に比べ11・6畝増えた。

